

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町の個人住宅建設などの小規模開発に伴う、記録保存のための町内遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国（1,990,000円）、県（995,000円）の補助金を受け、平成3年4月9日から平成4年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会
教育長	小林茂吉
社会教育課長	吉田和子
町史・文化財係長	岩崎保夫
町史・文化財係	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
発掘調査担当者	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
4. 本書の執筆は調査担当者があたり、文末に記した。
遺構図版作成は小林登喜江、石器実測図版作成は鍋島直久、土器拓影図作成には整理作業参加者全員の協力を得た。また、本書の編集・挿図の作成については今井堯氏の絶大な援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏、機関により御指導、ご協力を賜った。
浅野晴樹、荒井幹夫、今井堯、内田賢司、加藤秀之、神木繁嘉、駒井和久、桜井信枝、佐藤正志、笹森健一、田代治、谷井彪、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、三上七五郎、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治（敬称略）
埼玉県教育局指導部文化財保護課、大井町大井・苗間第一土地区画整理組合、亀久保特定土地区画整理組合、大井町遺跡調査会、大井町立郷土資料館。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。明記して謝意を表したい。
〈発掘調査参加者〉（敬称略）
会沢泉、浅野昭夫、新井和枝、飯塚泰子、石川与一、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大曾根キク子、遠田つる、笠原英子、金子君子、神木光治、小林こずい、小山エミ子、佐久間ひろ子、佐藤至一、佐藤智子、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木健蔵、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、細谷清作、山内栄美子、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。
〈整理作業参加者〉（敬称略）
石垣ゆき子、須藤さち子、柚木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、中野和子。

凡 例

1. 本書の図版の縮尺は、住居・土坑 $\frac{1}{60}$ ・炉 $\frac{1}{30}$ ・石器実測図 $\frac{1}{4}$ ・土器拓影図 $\frac{1}{3}$ とした。
2. 遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ(cm)を示す。
3. 胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。
小礫；2.0mm以上、粗砂；0.2～2mm、細砂0.2mm以下。
4. 土器図の断面図の表図は、「網目」が繊維含有、「黒丸」が雲母末を含有する縄文土器を表している。

I 経 緯

○ 調査に至る経緯

埼玉県大井町は、首都圏30km圏内の県西南部に位置する。かつては畑作を中心とする純農村地帯であったが、昭和40～50年代にかけて人口で約22,000人、6,000戸が急増した。面積8km²で現在の人口は39,000人を超えている。昭和60年代以降は、大規模な土地区画整理事業が進められ、町内遺跡の約80%近くがその区域内に位置しているため、土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が町遺跡調査会により通年実施されてきている。町では、国庫補助を受けて「東部遺跡群発掘調査事業」（昭和53年～平成元年）「町内遺跡(群)発掘調査事業」（平成2年～）として民間の小規模開発に対処するため、埋蔵文化財の調査を実施してきた。遺跡の調査は、庁内関係各課と連絡調整をして行ってきた。農業委員会事務局から農地転用許可申請段階、また、建設課から開発事前協議・建築確認等の申請段階でそれぞれチェックされ、教育委員会は遺跡地図と照合のうえ現地踏査を実施し、遺跡の状況を確認したうえ、遺跡に影響をおよぼすとみなされる工事主体者に連絡し、協議を行った。その結果、教育委員会が記録保存のための発掘調査を工事主体者から依頼され、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施することになったものである。平成3年度の調査は、下記の21箇所であった。民間及び公共事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査についても、国庫補助事業として対応した。（坪田幹男）

NO	遺 跡 地 点 名	所 在 地	開発面積	調 査 原 因	調 査 期 間
1	西ノ原遺跡第46地点	大井町苗間83-2	199m ²	個人住宅建設	2, 4, 9～4, 10
2	亀居遺跡第27地点	" 亀久保995-2	249m ²	"	5, 7, ～5, 20
3	本村遺跡第20地点	" 大井253-1	1,150m ²	"	5, 21～6, 14
4	東台遺跡第19地点（試掘調査）	" 大井621	4,489m ²	特別養護老人ホーム建設	5, 31～6, 7
5	大井氏館跡遺跡第5地点（"）	" 大井	2,220m ²	営業所建設	6, 11～6, 17
6	鶴ヶ岡遺跡第1地点（"）	" 鶴ヶ岡3-3-1, 21	5,71m ²	体験学習園整備	6, 26～7, 17
7	西ノ原遺跡第47地点	" 苗間136-2	141m ²	個人住宅建設	7, 15～7, 26
8	亀居遺跡第30地点	" 亀久保1007-3, 1008-3	116m ²	"	7, 22～7, 23
9	西台遺跡第1地点（試掘調査）	" 大井894-2	1600m ²	資材置場	7, 24～7, 25
10	本村遺跡第22地点	" 大井108, 109	110m ²	個人住宅建設	7, 15～7, 31
11	浄禅寺遺跡第5地点（試掘調査）	" 苗間374-9	100m ²	"	8, 28～9, 3
12	本村遺跡第23地点（"）	" 大井169	268m ²	"	8, 29～8, 30
13	浄禅寺遺跡第6地点（"）	" 苗間358-1	826m ²	"	9, 21～9, 24, 12, 3・26
14	亀居遺跡第31地点	" 亀久保995-2, 7	197m ²	"	9, 26・30
15	大井清水弁財天遺跡（試掘調査）	" 大井267・263	42m ²		11, 11～11, 14
16	亀居遺跡第32地点	" 亀久保1008-1	115m ²	個人住宅建設	12, 3～9
17	亀居遺跡第33地点	" 亀久保1011-7	998m ²	"	12, 10～12, 26, 3, 2, 10～2, 1
18	亀居遺跡第34地点（試掘調査）	" 亀久保995-2	634m ²	"	3, 2, 13
19	西ノ原遺跡第51地点（"）	" 苗間153-2	1,190m ²	モデルルーム建設	2, 4, ～2, 12
20	西ノ原遺跡第52地点（"）	" 苗間122	984m ²	ガソリンスタンド建設	2, 10～2, 20
21	鶴ヶ岡遺跡第3地点（"）	" 鶴ヶ岡1-110-5	646m ²	資材置場	3, 25

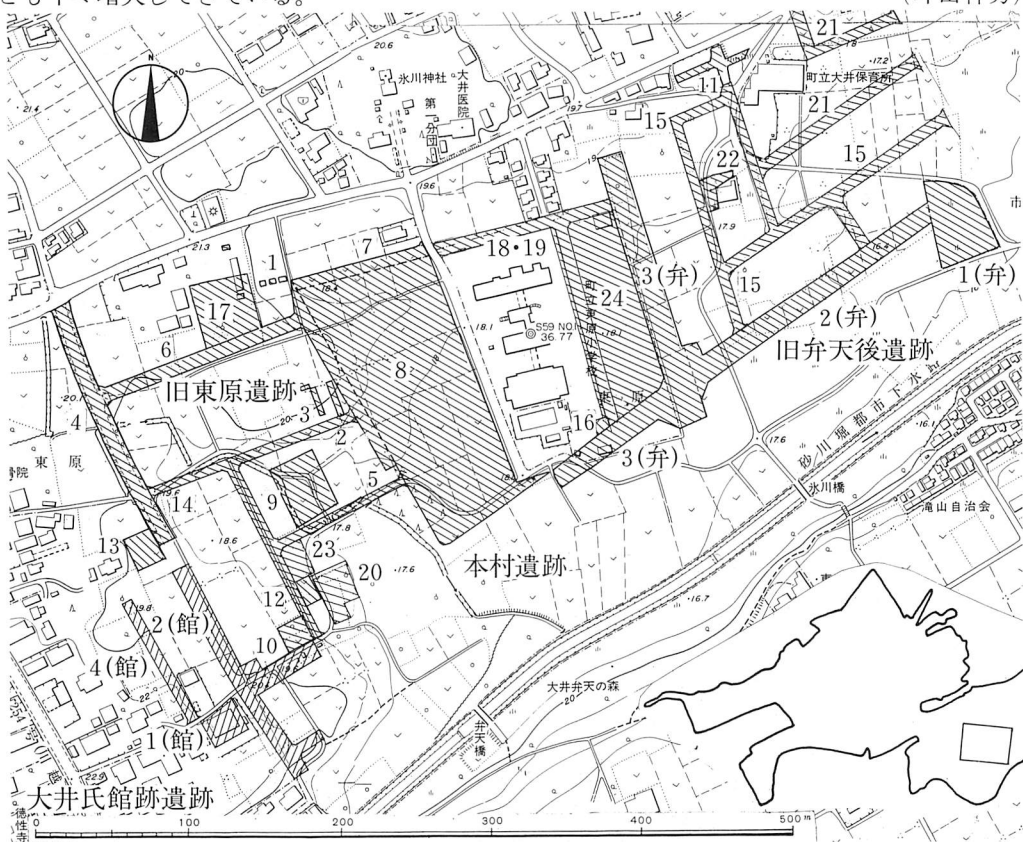
VIII 本村遺跡

VIII-1 遺跡の立地と環境

砂川堀を南にひかえ、標高20mから15mと東と南に向けて徐々に低くなる低位台地上にある。縄文時代の拠点集落の一つ西ノ原遺跡とは谷筋が違うものの同じような立地条件にある。その範囲は、東西約600m、南北約250mに及んでいる。遺跡は一見平坦に見えるが、遺跡の西側には微高地が存在し、立川ローム第Ⅳ層～第Ⅶ層にまたがる良好な石器群が検出されている。これまで西側を東原遺跡、東側を弁天後遺跡としていたが、両者の調査進展に伴い、同一遺跡であることが判明し、1989年9月に本村遺跡と改称し、埼玉県教育委員会に遺跡変更増補の手続きを行なった。これまでの調査から判明した遺跡の種類は、旧石器時代のキャンプサイト、縄文時代はすぐ南側の台地上に立地する町内屈指の拠点集落である東台遺跡の狩猟場として、そして中世期～江戸初期頃の村落遺跡の複合遺跡である。特に村落遺跡は、江戸時代の大井宿以前の旧村落の様相をきわめて良好な状況で残されている点からも注目されよう。

遺跡地内には、県内一の事業面積を有する大井・苗間第一土地区画整理事業内に位置しているため、都市計画道路が縦横に取り付けられ、公共用地も予定されるなど発掘調査面積、件数とも年々増大してきている。

(坪田幹男)



第41図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5000)

Ⅷ-2 第20地点

(1) 調査の概要

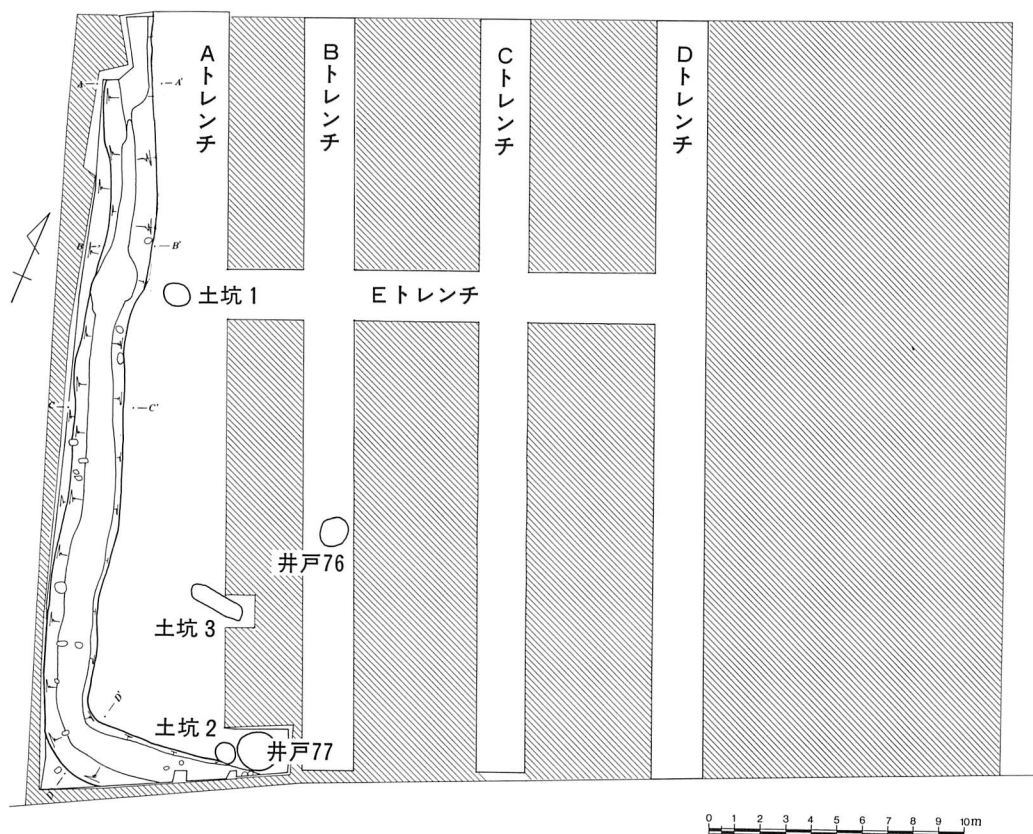
本発掘調査は個人住宅建設の申請により、1991年5月21日から試掘調査を行ない、遺構が確認されたため本調査を行なった。試掘は、トレンチを調査区の西側境界線に平行して幅 2×30 mを4本、調査区に直交する幅 2×30 mを1本設定した。重機による表土除去後、人力による表面精査で溝状プラン及び円形プランを確認したため、同月22日より本調査を開始した。

本地点は、本村遺跡の南西部に位置し西約15mに第21地点、北北西に隣接し第23地点が存在する。遺跡の現状は畑地で、一部駐車場であった。

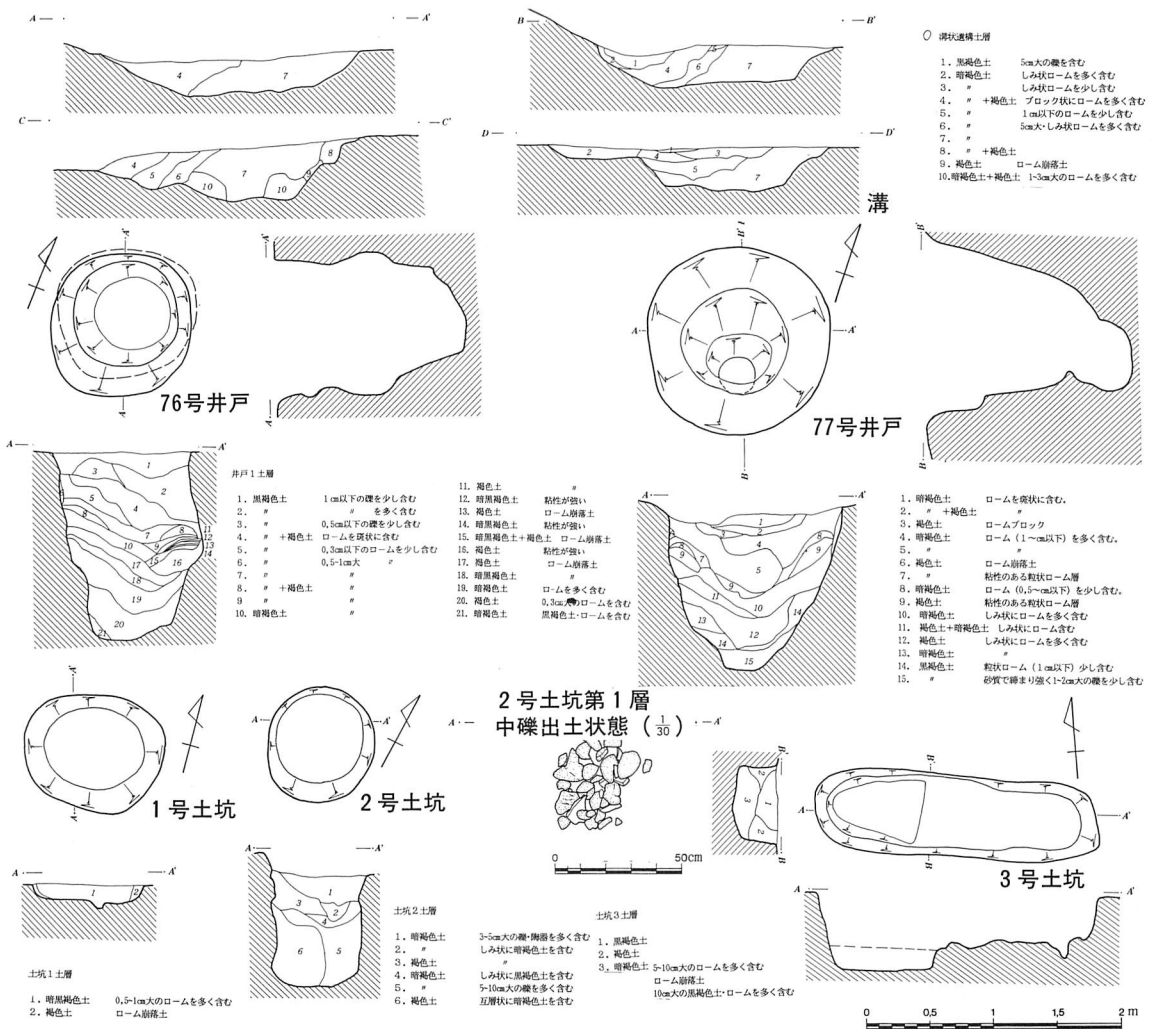
本調査は、トレンチで確認されたプラン部分を拡張して行ない、溝状遺構1、井戸2基、土坑3基を検出した。調査区の土層は、耕作がロームまで達しており黒色土1層である。

(2) 溝状遺構

本遺構は調査区西壁際に位置し、北西から南東にやや蛇行ぎみに走り、調査区南東隅で東にほぼ直角に曲がる。上幅は1.9~2.6m、下幅は0.2~1.4mを測り深さは確認面より20~55cmを測る。溝は全体的に浅く、断面形態は中端でテラス状に緩い段を持ち底部に小ピットが多数見られる。



第42図 本村遺跡第20地点調査区域図 ($\frac{1}{300}$)

第43図 本村遺跡第20地点溝土層・井戸・土坑 ($\frac{1}{60}$)

出土遺物は、陶磁器片十数点が出土しており、全て底部より少し浮くか覆土中である。

本遺構は、大井・苗間第一土地地区画整理事業以前の図面に記されている道にほぼ沿っており、これら廃道は鎌倉街道との関連性や出土遺物からも、比較的古い時期のものと考えられる。本調査区に隣接し、位置する第23地点においても溝状遺構が検出されており、同一遺構であるのか否かは、今後の調査課題である。

(3) 井戸

本調査区より井戸は2基検出されている。時期については、不明である。

76号井戸は、Bトレンチより検出された。平面は不正の円形を呈し、断面形は凹凸をもってほぼ垂直に立上がる。規模は上端1.09~1.12m、下端0.55~0.59m、深さは確認面より最深部で1.47mを測る。遺物は出土していない。

77号井戸は、調査区南東部の調査区南壁際よりに検出され2号土坑・溝状遺構と接する。平面はほぼ円形を呈し、底部は袋状を呈する。断面形は袋状の底部よりやや凹凸をもってU字形に立ち上がる。規模は、上端1.9～1.1m、下端0.28～0.3m、深さは確認面より最深部で2mを測る。

(4) 土坑

本調査区より土坑は3基検出されている。

1号土坑は調査区の西部、Aトレンチに位置する。平面形は、不正の円形を呈し壁はわずかに凹凸のある底部より緩く立ち上がる。規模は、上端93～109cm、下端64～78cm、深さは確認面より最深部で0.18mを測る。

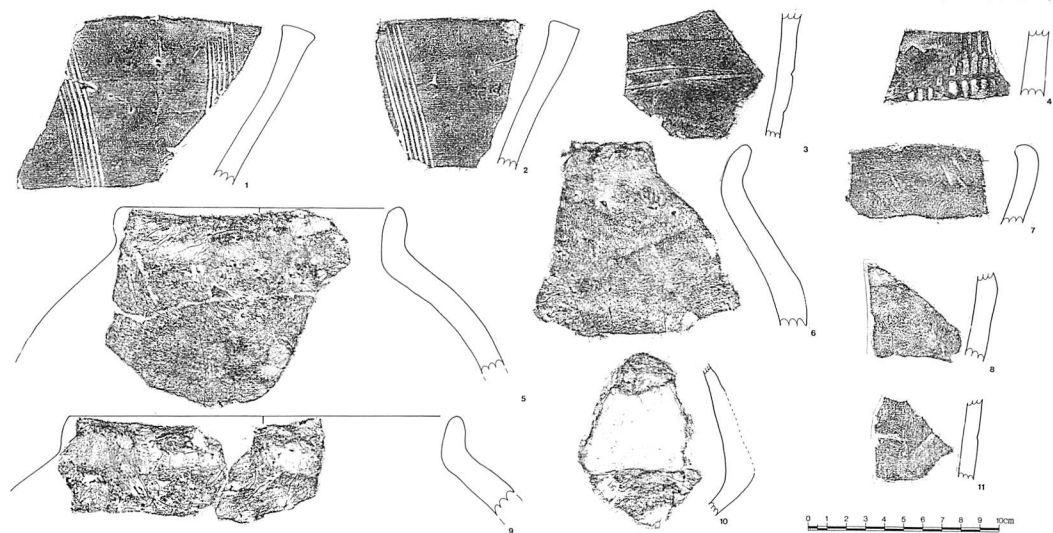
2号土坑は調査区南東部の調査区南壁際よりに検出され77号井戸・溝状遺構と接する。覆土1層に3～5cm大の礫が集中して出土している。平面はほぼ円形を呈し、壁はやや凹凸のある底部から凹凸をもってほぼ垂直に立ち上がる。規模は、上端84～92cm、下端68～70cm、深さは確認面より最深部で1.1mを測る。

3号土坑は調査区の西部、Aトレンチに位置する。平面形はほぼ長楕円形を呈し、壁は凹凸のある底部より垂直ぎみに立ち上がる。規模は、上端0.62～2.26m、下端0.43～2.01m、深さは確認面より最深部で54cmを測る。本遺構は、大井氏館跡遺跡や、本村遺跡の他の地点に多く見られる土坑に形態や覆土が類似する。

(5) 出土遺物

1・2は2号土坑覆土出土摺鉢、3は溝状遺構覆土出土三筋壺、4は77号井戸底面出土胴部破片で、1～4は常滑である。5は2号土坑覆土出土、6・9は溝状遺構覆土出土の、在地製瓦質甕口縁、7は2号土坑覆土出土の、在地製瓦質の片口口縁である。本地点出土遺物については、埼玉県文化財保護課の浅野晴樹氏に御教示いただきましたので、ここでお礼申し上げます。

(鍋島直久)



第44図 本村遺跡第20地点出土土器 (1/4)



調査区近景



溝状遺構(南から)



溝状遺構 2号土坑 井戸 77



溝状遺構土層断面



井戸 76



1号土坑

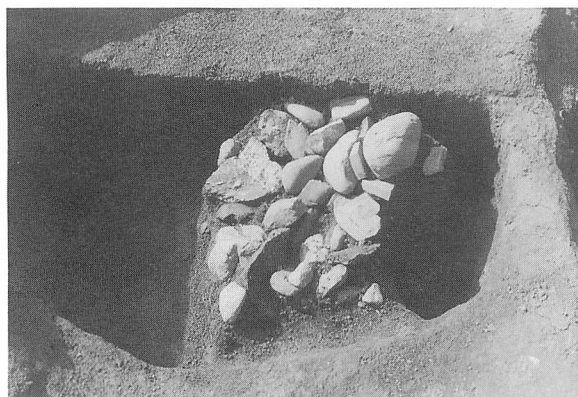


左 2号土坑 右 井戸 77



3号土坑

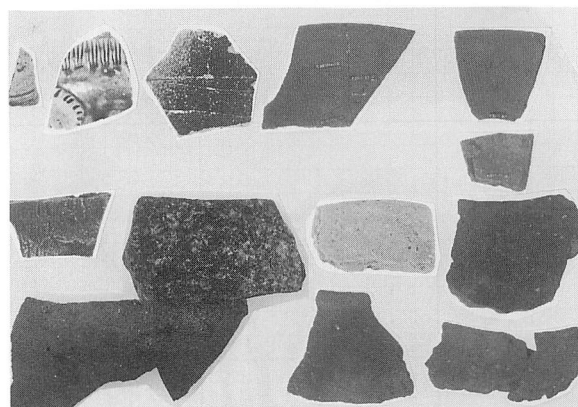
第
20
地
点



2号土坑礫出土状況



溝状遺構遺物出土状況



溝状遺構・土坑出土遺物

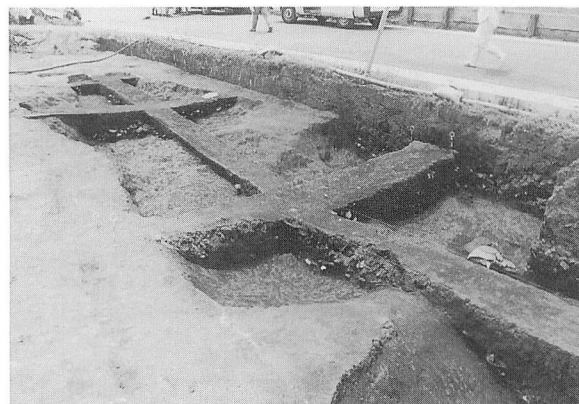


調査前全景

第
22
地
点



調査風景



調査区全景



遺物出土状況



墨書入り摺鉢